

データの作成方法（小川ほか, 2013 より）（2015/11/05 ver. 1.1）

環境省自然環境局生物多様性センターのウェブサイト、自然環境 GIS 提供システム（<http://www.biodic.go.jp/trialSystem/top.html>）内の自然環境保全基礎調査の第 2 回・第 3 回～第 5 回の植生調査県別・支所別一覧（<http://www.biodic.go.jp/trialSystem/vg/vg.html>）より植生図の空間情報データをダウンロードした。第 2 回・第 3 回～第 5 回の植生図は 1/50,000 地形図を単位として作成されている。

都道府県のそれぞれのフォルダには全国の植生凡例の一覧を示した `veg_a.csv` というファイルがある。ここに記載されている 905 の植生凡例（レコード）を集約し（付表 1）、土地利用区分として再集計した。最初に、各植生凡例の相観にもとづき草原、森林、水辺・海辺、特殊基質、耕作地等、住宅地、海、および不明の 8 カテゴリーに分類した。草原と森林については、植生自然度にもとづいて、自然性が高いもの（自然草地、自然林）、二次的なもの（二次草地、二次林）、人為的に作られたもの（人工草地、人工林）、およびその他に分類した。森林については、自然林、二次林、人工林の中を針葉樹か広葉樹か、あるいは、常緑樹か落葉樹かに着目し、これらの組み合わせで細分した（付表 1）。相観による分類をさらに細分するという階層的な分類方法を採用することにより、既存の土地利用図の分類項目との対応関係が明瞭になり、比較が可能となる。解析の目的に応じて大分類、中分類、細分類を使い分けることも可能である。各土地利用それぞれの面積を 2 次メッシュと 3 次メッシュ（付図 1）で集計を行った。